道徳科	第５，６学年	三次市立川西小学校	指導者

教材名 **「ぼくのお茶体験」【出典:「6年　生きる力」日本文教出版】**
主題名:伝統の心づかい【C－17　伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度】

1　日　時　　令和５年６月１日（木）　６校時
2　学　年　　第５学年　５名　　第６学年　３名　　計８名
3　ねらい　　相手を敬ったり，気遣ったりする気持ちを形として表す作法の意義を理解し，受け継がれてきた我が国の伝統や文化のよさを感じ，大切にしようとする心情を育てる。
4　主題設定の理由

単元観

第５学年及び第６学年の指導内容 C－（１７）は，「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」を基に設定した。

自分が生まれ育った郷土は，その後の人生を送るうえでの心のよりどころとなるなど大きな役割を果たすものである。また郷土は，生きるうえでの大きな精神的な支えとなるものである。

郷土から国へと親しみをもちながら視野を広げて，国や郷土を愛する心を持ち，国や郷土をよりよくしていこうという態度を育成することは，今日的な課題であり，国際理解や国際親善にもつながっていくものである。

次代を担う児童に，自分たちの国で長い歴史を通じて培われ，受け継がれてきた伝統と文化のよさの理解を深め，それらを尊重し，さらに発展させていこうとする心情を育てたい。

児童観

指導観

指導に当たっては，主人公「ぼく」の気持ちに寄り添わせながら，資料を読み進める。

導入では，「茶道について知っていることはありませんか。」と問い，茶道に対する興味や関心を持たせ，本文へとつなげていく。

展開では，作法の意味は分かったのだが，作法の必要性について疑問を抱く「ぼく」の気持ちを考えさせる。作法（形で気持ちを表す。）のよさ（心）をおさえる。大きくうなずいた「ぼく」が，「これからどうしようと思っているのか。」まで考えさせることで，伝統や文化を大切にしようとする児童の心情を育てたい。

終末段階での振り返りの発問では，伝統や文化は長い間，人々の努力によって受け継がれてきたものであることをおさえたうえで，「形で気持ちを表す」よさを実生活と結び付けて考えさせる。本校で取り組みを進めている「挨拶や返事」を丁寧にすることも，本校の伝統となるので，高学年としてのよいお手本となる姿勢を全校児童に見せていくことも大切であることに気づかせる。

5　本時の展開

（1）評価について

【評価の観点】　相手を敬ったり，気遣ったりする気持ちを形として表す作法の意義を理解し，受け継がれてきた我が国の伝統や文化のよさを感じることができたか。

【評価の方法】発言・道徳ノート

（2）準備物

挿絵

（3）展開

	学習過程	主な発問と予想される児童の心の動き 【○基本発問　◎中心発問】	指導上の留意点(○) 準備物など（●）評価（★）
導入	**①「学習テーマの提示」** 1　本時の学習への興味や関心を高める。	○日本の茶道について知っていることはありますか。 ・和室でお茶菓子と苦いお茶が出てくる。 ・お茶わんを回してから飲む。 ・正座をしないといけない。 ・面倒くさそう。	○茶道について知っていることを問い掛け，教材への興味・関心を呼び起こす。 ○茶道に対するイメージも発表させる。
展開	**②「追求活動」** 2　教材「ぼくのお茶体験」の内容を知り，話し合う。	○「ほっ……。」とした「ぼく」は，どんなことを考えていたでしょう。 ・やっと終わった。 ・窮屈だったなあ。	○作法に対して，「ぼく」が抱いている否定的な気持ちを捉えさせる。
		○高木先生に質問した「ぼく」は，どのような気持ちから作法にこだわらなくてもよいと思っていたのでしょう。 ・相手を敬ったり，気遣ったりする気持ちがあればよいと思っていたから。 ・作法が窮屈だと思っているから。	○相手を敬ったり，気遣ったりする気持ちを込めた作法の意味はわかったが，作法の必要性について疑問を抱く「ぼく」の気持ちを考えさせる。 ○「ぼく」は，相手を敬ったり，気遣ったりする気持ちは大切であると考えていることを押さえたうえで，気持ちを考えさせる。
		○「形で気持ちを表す」ことのよさは，どんなことですか。 ・礼儀の心を表現しやすい。 ・礼儀の心が相手に伝わりやすい。 ・お互いに気まずい思いをしなくて済む。	○「形で気持ちを表す」作法のよさについて，考えさせる。
		◎大きくうなずいたとき，「ぼく」はどんなことに気づき，どうしようと思ったのでしょう。 ・形で気持ちを表すことができるのだな。 ・形の作法のよさがわかった。 ・これからは，自分の気持ちを作法で表せるようにしよう。 ・他の作法も知ってみたい。	○「形で気持ちを表す」ことのできる作法のよさを理解し，作法に対して肯定的になった「ぼく」の変容に共感させ，作法に対して積極的な関わりをもとうとする気持ちを想像させる。 ★作法の意義を理解し，伝統や文化を大切にしようとしている。（発言、道徳ノート）

終末	③　「児童一人一人のふりかえり」 ３　本時の学習から自分たちの生活について振り返る。	○「形で気持ちを表す」ことを知らないかな。 ・「挨拶や返事」を丁寧にしていくこと。	○実生活へとつなげていき，挨拶や返事の大切さについて考えさせる。

６　板書計画

水無月　一日（木）

伝統の心づかい

⑧ぼくのお茶体験

○「ほっ・・。」とした「ぼく」は、どんなことを考えたか。
・やっと終わった。
・きゅうくつだったなあ。

○どんな気持ちから作法にこだわらなくてもよいと思ったのか。
・相手を敬う気持ちがあれば。
・気づかう気持ちがあれば。
・作法がきゅうくつだった。

○「形で気持ちを表す。」ことのよさは、どんなことですか。
・礼儀の心を表現しやすい。
・礼儀の心が相手に伝わりやすい。
・気まずい思いをしなくてよい。

◎大きくうなずいた時、どんなことに気づき、どうしようと思ったのか。
・形で気持ちを表せれる。
・作法のよさがわっかた。
・他の作法も知ってみたい。

○作法を重んずる茶道のよさは何でしょうか。
・気持ちを表現しようとしている。
・作法を大切にし続けている。

【事後研修のまとめ】

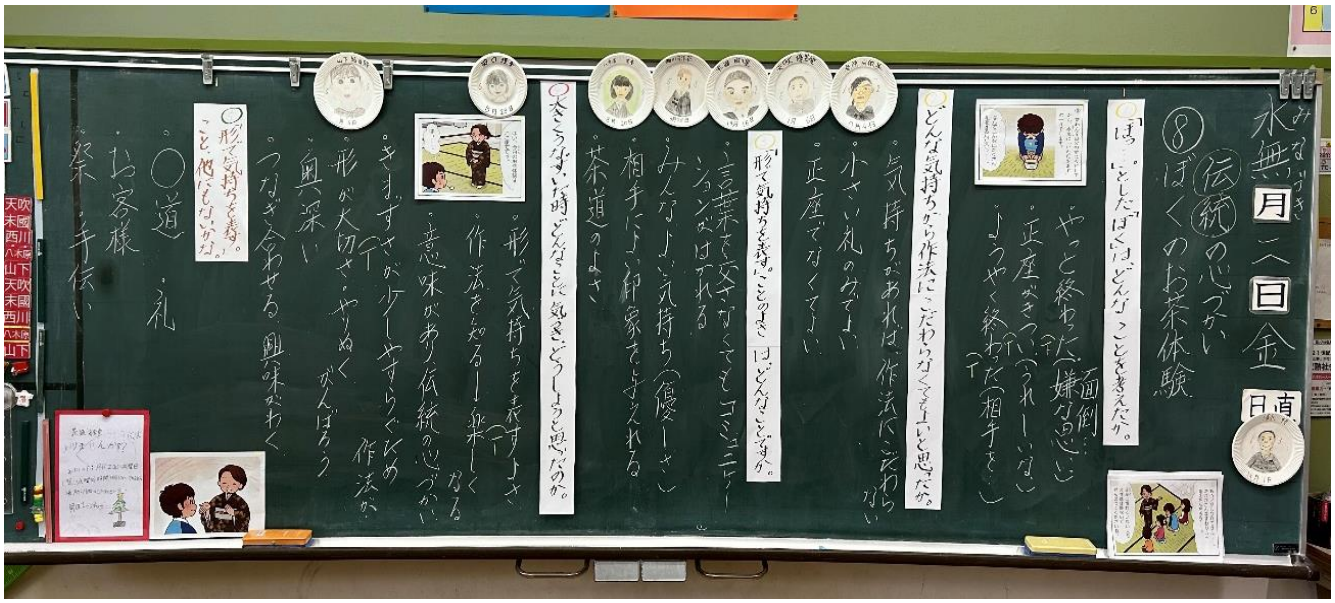
＊授業者の振り返り

①発問の検討（発問を絞り込んでいたか。問い返し発問が適切であったか。）
・教材分析シートにより、主人公に寄り添う発問を考えることが出来た。
・主発問に至る前段に、「形で気持ちを表すことのよさ」をペアで考えさせたので、主発問を一人で考えさせることが出来た。（ホップ、ステップ、ジャンプと進んだ。）

②対話場面の設定が有効であったか。
・一人で考えるのが難しい発問は、授業の中盤と終盤に対話場面を仕組んだのが、有効であった。思考が深まった。
・デジタル機器を活用し、視覚的効果をねらうことができた。

成果

〇教材分析シートにより骨格が分かり、発問を絞ることが出来た。
〇児童たちは、日本の伝統文化である「茶道」の作法について知れたようである。
〇形から入り、それを繰り返すことにより、心が育っていくことを、児童たちは学んだ。
〇自分たちの生活を振り返りながら、主人公の気持ちに寄り添い、発言する児童が出てきた。

課題

●主題である「伝統の心遣い」から逸脱してしまう補助発問をしてしまった。
●主題によっては、ペアトークの組み合わせを変える必要があることを学んだ。
（身近な問題の教材内容なら、同学年ペアとする。下学年では読み取りが難しいと感じ取れる教材内容なら、異学年ペアとする。）